

平成30年1月9日（火）

平成29年度第3学期始業式 式辞

兵庫県立山崎高等学校長 野谷るり子

皆さん、おはようございます。新しい年を迎え、第3学期が今日から始まります。この休業中はどんな過ごし方をしたでしょうか。補習や部活動、模擬試験、親戚の家や旅行に出かけた人もいると思います。年も新たに、先生方も含めて全員が一同に会することができるのはとても嬉しいことです。今年も今年ですが、元気で明るく、仲間を大切に学校生活を送ってほしいものです。

私はというと、年末年始はゆっくとテレビでスポーツ観戦を楽しみました。全国高校生駅伝や大学箱根駅伝など、懸命に仲間にタスキをつなぐ姿には心打たれました。2月早々には平昌オリンピック、また本校でもマラソン大会が開催されます。冬のスポーツたけなわの季節です。

マラソンは距離も長く、厳しく孤独な闘い、というイメージがありますが、過去に強烈に印象に残っている女子マラソン選手がいます。2000年のシドニーオリンピックで日本女子陸上界史上初の金メダルに輝いた高橋直子選手。同年10月には国民栄誉賞も受賞されています。本当に軽やかに、何とも楽しそうに走る姿が忘れられません。ゴール直後のインタビューを「すごく楽しい42キロでした。」と満面の笑顔で、息も切らさずに締めくくりました。スタート前もとても走るのが楽しみだったそうです。理由は、「当時は高地トレーニングも含め、毎日過酷な練習を重ね、1日単位で40～80キロ走っていたので、当日はあと42キロだけ走ればよかったから」だそうです。2008年に36才で高橋選手は引退しましたが、その理由は「日々の練習を全力でこなせなくなったから。」

元マラソン選手で最近では大学教授・マラソン解説者として活躍中の増田明美氏によると、「高橋選手は練習が試合。試合で結果が残せなくなったからではなく、一日一日の練習を全力で取り組むことができなくなったから引退、というのは彼女らしい。」あの軽やかな走りは日々の練習の成果に他なりません。これはマラソンに限ったことではありません。日常を充実させることが成功につながります。

3年生は今週末（1月13、14日）のセンター試験、25日からの卒業考査が目前に迫り、3年間の高校生活を総括する大詰めの時期を迎えました。慌ただしい日々となりますが時間を無駄にせず、有終の美を飾るようにしてください。2年生はいよいよ13日から修学旅行です。その後は自分の将来設計を具体的に定め、実現に向けてやるべきことが明確に見えてくる時期です。この学期を最上級生のスタートとして過ごしてください。1年生は3学期で高校生としての全ての基礎作りを終え、4月から上級生になるにふさわしくあるよう心がけてください。全員が気持ちを引き締め、平成29年度最後の学期に臨んでくれることを願って、式辞を終わります。